

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域のボランティア(フラダンス、日舞、フォークダンス、語り部)を受け入れ、入居者と楽しいひとときを送れる様にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の居間は天井が高く開放感があり、天窓もあって室内全体が明るい。壁には季節を感じさせる入居者の描いた塗り絵や切り絵が貼られ、花瓶に生けられた寒桜が素敵な雰囲気を出している。入居者の座る椅子はクッションが良くゆったりした造作になっており、座ったまま昼寝をする方もいるとのこと、入居者からも「この椅子は本当に気持ちがいいよ」との声が聞かれた。入居者と職員が楽しそうにレクリエーションに興じたり、食事中も職員が介助や見守りをしながら、楽しく会話し笑い声が絶えない様子からは、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしみながら」という理念がまさに実践されていることが窺える。地域の行事に入居者が参加したり事業所の行事に地域住民が気軽に来たり、数多くのボランティアが来る時には近隣住民と一緒に楽しむこともあるなど、地域との連携が図られている。また、隣接する同一法人の事業所と合同で毎月勉強会を行い、法人全体でも随時職員研修を行うなど、職員の資質向上とケアの改善に向けた取り組みは評価できる。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり一緒に楽しみながらご自分に合ったペースで自分らしく安心した生活が過ごせるよう共に楽しみ暖かい心で寄り添いながら支援している。	『「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」その人らしさを大切にした生活の支援』という理念を掲げていて、法人の事業所を統括する施設長が毎月の定例会議、職員の異動や入職時などに理念の周知を行っている。入居者と職員が本当に楽しそうにレクリエーションに興じていたり、食事中も会話や笑い声が絶えない様子などから、理念が確実に実践されていることが窺える。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われた作品展に利用者様方の作品を展示したり、散歩や外出時、ご近所の方々と気軽に声掛けあっている。十五夜・十三夜・語り部といったいろいろな地域の方と共に交流を持ちつつ、ボランティアの方には参加してもらっている。	地区公民館の作品展に入居者の作品(塗り絵・ちぎり絵のカレンダー)を出品したり、事業所の夏祭りに近所の方が来たりしているほか、数多くのボランティアも訪れている。特に、語り部ボランティアの際は、近隣の高齢者にも参加を呼びかけ、20名以上の方が参加して入居者と一緒に楽しむなど、地域との交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症がどのようなものか知っていただく場を設けていきたいと思うので、今後、認知症サポーターの講習会を地域で行いたいと考えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において区長や地域住民の方の意見を伺い、公民館活動や作品展示などに参加させていただいている。	運営推進会議は、隣接する同一法人事業所と合同で年6回開催している。区長や民生委員のほか地域代表の方も参加して、活発な意見交換が行われている。公民館への作品出展も区長からの提案であり、消防団に所属している地区代表から、近隣を流れる用水が氾濫する場合もあるとの情報を得て防災計画に盛り込むなど、会議内容を運営に反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	矢板市の介護サービス事業所連絡協議会やグループホーム連絡会に出席している。その際、日頃サービスで悩んでいることの見解を出し、指導していただいたり、情報をいただいている。	市主催の各種会議に管理者やケアマネージャー等が参加して意見交換や情報収集を行い、市担当者からもアドバイスや指示等を受けて運営に生かしている。また、運営上の問題や入居者の状況等について相談に乗ってもらうなど、市担当者と日常的に連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていなくても言葉できついことを言っていることがあるので気を付けていきたい。『介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』について、再度理解と確認をしていきたい。	拘束禁止に関するマニュアルを作成し職員に周知済みであるが、毎月実施している勉強会で「高齢者虐待防止」をテーマにして学習するなど、職員の理解と実践の徹底を図っている。日常のケアの場面で、時として入居者の行動を抑制する言葉などが出てしまうことがあるとのことだが、職員が相互に注意しあうなど改善に向けて努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止について勉強し、資質の向上に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で、講師の方を招いて、実施している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合は、施設長、管理者、介護支援専門員から具体的に説明し、疑問や不安な点についてお答えしている。そのため、十分な理解・納得していただき契約している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のコミュニケーションの中で、利用者様が意見を出しやすいよう職員とのコミュニケーションを大切にしている。要望などが出たときは、管理者等に報告する。	家族が面会に来た時(最低でも月1回は面会に来てもらうよう、利用料の支払いは事業所で現金払いとしている)や電話があった時などに、ケアや運営についての意見や要望を職員が直接聞き取るようにしている。また、あまり話しをしながらない入居者が多いので、可能な限り日常的に職員が話しかけて、何を思っているか、何がしたいのかなどを把握するように取り組んでいる。	「新たに配置されたり入職した職員の名前については特別な手段で家族に伝えていない」ということであるが、職員は名札を着用していないので、家族に安心感を与え職員との繋がりを図る意味からも、何らかの方法で職員の名前や簡単なプロフィール等を家族に伝える取り組みをすることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今後どのようにしていきたいか、一人一人の意見を聞いていると思う。また、職員が月に一回の定例会議に積極的に参加し、意見を言い合い改善の方向に向けるよう努めている。	毎月定例会議を開催し、入居者の状況・行事・運営改善等をテーマに、活発な議論を行っている。トイレの場所が分からなくなってしまう方のために、床に緑色のビニールテープで矢印をつけたり、夕食時間の統一に伴う職員の勤務時間の調整をする等、職員からの提案を受けて数々の改善に向けた実践がなされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は働きやすい環境整備がされているが、もう少し、コミュニケーションが円滑にできるよう願っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や認知症に対する講演会や勉強会に参加して、情報交換していると思う。一人ひとりの知識を高めてほしいのであれば、今後研修を受講できる機会があるといいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会に参加し、事例の検討等を通して情報交換をしてサービスの質の向上に努める。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気を作るよう明るい笑顔で心がけ、落ち着いた気持ちで相談できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ、詳しく実際の状況や提供できるサービスについて話をして状況を理解していただいたうえで、ご利用して信頼関係を良いものにできるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がどんなニーズを求めているか見極める。常に幅広い知識と情報を把握し、良い方向に支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事はしていただき、できないことは支援するという関係はできている。食事前のテーブル拭きや、洗濯物干し・たたみなど、自分達でできることを共に過ごす者同士としていい関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来たときは居室でゆっくりお話しできるよう努めている。入所者様の様子を定期的にお知らせしている。健康状態や薬の管理などについて連絡している。病院受診は基本的に家族が対応している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前、一緒にフォークダンスをしていた仲間がボランティアとして週に1回来訪され一緒に踊っている。知り合いの方が面会に来られた際ゆっくりとお話できるよう配慮している。	行事での外出先について、入居者が希望したり知っている所などを聞いて行き先を決めるようにしている。また、入居者が以前所属していたグループの仲間が毎月訪れてきて一緒に活動していて、他の入居者も仲間として楽しむなど、馴染みの人や場所との関係維持に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しでも多くの方と関わっていただけるよう、席替えをしたり孤立せずみんなが穏やかにより良い関係が築けるよう努めている。また一人で、居室にいる場合は、フロアでお茶を一緒に飲みましようとして声掛けをしたり、一緒にゲームをしたり、談笑したりと、積極的に声掛けしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方達とも時々家族やその施設に別の用事で訪問した際、様子を伺っている。入院された場合でも、その後の支援の相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、入居者様の思いや好み喜び又は、望みなど常に観察している。意思表示のできない人などは顔色や行動に注意し、見逃さないようにしている。	ほとんどの入居者は言動が穏やかで、自ら要望などを言うことが少ないため、職員が具体的な選択肢を上げて聞いてみるなど、色々な方法で入居者が思っていることを引き出すよう工夫している。また、言葉の出にくい方については、表情や態度などから職員が思いや意向を汲み取るよう努力している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するまでどのような暮らし方、生活ぶりなどの把握に努めている。できるだけその人らしい暮らしを大切にしたい。これまでの生活環境に近い状況にしたい。家で使用していた物・写真などを持って来ていただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活環境、家族関係を把握。どのように一日を過ごしていたかを把握し、自分で何が出来るかを観察できることを一緒にしていきたい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、アセスメント・モニタリングを行い、家族と共にサービス担当者会議を開催している。介護計画を作成している。	入居者についてのアセスメントや3ヶ月に1回実施するモニタリング結果、入居者や家族の意向、職員からの意見を収集した上でサービス担当者会議で検討し、ケアマネージャーが介護計画を作成している。介護計画は、入居者の生活状況の変化に伴い、適宜修正をして適切なケアが行われるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は六か月から一年で見直ししている。変化が生じた場合はその都度対応。本人・家族・職員などの意見を聞きながら介護計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にとってより良いサービスが提供出来るよう、これまでの生活に・家族関係を把握するとともに、本人様の状況に合わせてより良い生活をしていただくよう、日頃から職員同士話し合っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォークダンス・踊り・語り部などの地域の顔なじみのボランティアの方に来てもらい楽しんでいる。その時、地域の状況などの交流もある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基礎疾患のある入居者様は全員かかりつけ医を持ち、基本的には家族の介助で受診している。かかりつけ医と連携して、こちらでの状況を書面にして持って行っていただいたり、必要があれば受診に同行している。	入居者のかかりつけ医は入居前と変更はなく、家族が付き添い受診している。受診後の報告をケアマネージャーが家族から聞き、その後申し送りノートやファイルに記録し職員は必ず確認している。入居者の立ち上がり行動があまりに多かったため、受診にケアマネージャーも同行し本人の生活状況や服薬に関する説明をした結果、薬が変更され入居者の状態が落ち着いた事例もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がいないため、こまめびの看護師に相談し、対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、必要に応じて面会に出かけ、家族の相談に乗り、安心して療養生活を送れるよう支援したい。また、病院のスタッフとも、情報交換を行い、退院されたとき、どのように支援していったらいいか、相談しながら退院に向けて受け入れられる様努めていきたい。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所のサービス提供範囲で可能なところは説明している。その上で、入居者様1人1人が安心して過ごせるよう日々の健康管理や急変時の対応について誠実に行うよう努力している。今後については重度化や終末期について勉強していきたいと考えている。	新規の入居者については、医療体制がないため本事業所が「終の棲家」ではないことを家族に十分説明し了解を得ている。終末期について、1月に事業所の勉強会を、3月に法人の研修会を予定していて、今後も終末期の支援方法について勉強会や話し合いを重ねていきたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを参考に、研修等を行い、急変時に対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防訓練を行い、消防署職員の指導のもと、消火器の使用方法や避難訓練時に注意点や方法を受講している。	5月に地震からの出火想定、11月に夜間想定 of 火災避難訓練を行っている。緊急連絡網のファイルを事務所と居間に置き、職員がすぐ分かるようにしてある。夜間想定 of 訓練では落ち着いた連絡で誘導も素早く行われている。7月に災害対策の勉強会を隣接事業所と共同で行い、必要備蓄品リストを参考にして食料・日用品等を整え始めている。	夜間想定 of 訓練では一人の職員で入居者の誘導が何とか出来たのであるが、実際の緊急時には避難場所での入居者の見守りも必要になるため、今後地域住民の協力を得ることも検討し適切な役割分担等を考えて頂きたい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人のプライドやプライバシーを大切にするため、名字で声掛けしたり、トイレの声掛けは他の人にわからないよう耳元で確認し、その人にあつた対応をしている。	トイレ誘導の際は入居者の耳元で声をかけることや日常も名字で呼びかけること、職員同士の会話も入居者の近くではしないこと等、一人ひとりを尊重したケアに取り組み、定例会議でも実践状況を相互確認している。9月に隣接事業所と共同でプライバシーについての勉強会を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とのコミュニケーションを大切に会話の中で本人の思いや希望を直に表せるよう自己決定ができるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	入居者様1人1人の生活歴に配慮しながら、その人らしい暮らしが出来る様支援したい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居以前から通つている美容室に行かれ散髪したり、染めたりしている。床屋さんが2か月に1度来所され、散髪している。また、入浴時どの洋服を着たいかなど、利用者様と一緒に服を選んでいる。自分なりに化粧をしたり、洗面所で髪をとかしたりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に行い、談話しながら食している。下膳や食器ふきを手伝っていただいている。	副食は配食業者と近所の鮮魚店で調達し、御飯・味噌汁・おやつは職員が手作りして提供している。入居者は自前のお茶碗やコップ、箸を使い各々の希望の分量でゆっくりと自分のペースで食事をしている。各テーブルに必ず職員が同席して介助・見守りをし会話も多く見られる。うどん打ちの得意な入居者が年2～3回うどんを打ち、全員で楽しくいただくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録の中で、食事・水分量など記録している。摂取量が少ない時はきちんと声掛けし、摂取してもらうよう促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施していただいている。拒否されたときは、しばらく時間を置き、再度声掛けしている。義歯の方はご自分で汚れを落としてもらい、できない方は、介助にて行っている。毎晩ポリドントにつけている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取量や排泄表を見ながら、長時間トイレに行かれていないときは、耳元で声掛けし、誘導している。	布パンツの入居者もいるが、ほとんどの方がリハビリパンツ、パッド使用である。職員は水分摂取量や排泄表を見て、様子を見ながら声をかけトイレ誘導をし、個人に合った対応をしている。トイレのドア表示も分かりやすく、床にテープでトイレに向けて矢印をつけるなどの工夫がされ、排泄の自立支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日一度は乳製品やヨーグルトを提供している。おやつには、食物繊維の多い食べ物で作って出している。軽い運動等もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回曜日は職員の都合で決めているが、1人1人談笑しながら、入浴剤を入れて、ゆっくり入浴されている。体調によっては清拭にて対応している。	週3回午後1対1で入浴することが基本であるが、2人介助の方もいてゆっくりと個浴で行っている。脱衣所は台置が置かれゆったりとしたスペースがあり、床暖房とストーブの利用で温度差がないようにしている。体調によっては入浴日を変更したり、清拭での対応をしている。ゆず湯など季節の湯も行っている。	入居者の体調により入浴が出来ない場合の対応について家族との考え方の違いがあるとのことであるが、事業所の対応に理解を得るため、今後も家族と根気よく話し合いを重ねていくことを期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い時や、体調不良を訴えたときは、居室で休んで頂くよう声掛けを行っている。昼食後は本人の希望に合わせ、居室にて休まれたり、フロアにて談笑したり様々です。夜間は湯たんぽ・電気毛布・室内に暖房を入れたり加湿器を使用したりと本人の希望に合わせ、対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	前日に職員が配薬し、毎食前・後に服薬してもらう。飲む前に袋に書いてある名前を読みあげ、利用者様に確認してもらい、飲み終えるまで確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味などを参考にして、その人が興味を持って行えるものを考え支援している。洗濯物干し・たたみ・モップ掛けなどご自分でできる事はしていた。塗り絵・ちぎり絵・風船バレーなどその人に合った楽しみ方をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はウッドデッキにて日向ぼっこやスケッチしたり、少人数で、施設の周りを散歩したりしている。	年2回季節を感じる花見に行き外食もしている。天気の良い日は近所を散歩したり、庭の草取りや事業所前の畑の野菜の収穫、ウッドデッキにあるソファでのスケッチ等、各々の希望に沿った支援をしている。今後は職員との買物外出を行いたいと考えている。	事業所の近隣には学校や地区公民館があり、車の通りが少なく安全な道もあって散歩等がしやすい環境にあるので、今後可能な限り戸外に出かける機会を増やしていくことについて検討することを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様はお金の管理はしていない。家族の希望があれば、金庫にて預かり、床屋代等として使用している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方から手紙が届き、利用者様と職員とで読まれている。また、携帯電話を所持し「かけてほしい」と申し出があれば、対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品(塗り絵・ちぎり絵)を季節感が出るように壁を利用して展示したりしている。洗面台にも季節の花を飾ってあります。	居間の天井は高く天窓もあり、むき出しになっている梁が温かみを感じさせ明るい雰囲気である。季節からクリスマスツリーが飾られ、壁には雪の結晶の切り絵や入居者の書いたカレンダー、絵が貼られている。テーブルとゆったりした椅子で食事や作品作りを行い、ソファや可動式の台置が置かれていて入居者はそれぞれ好きなようにゆったりと過ごしている。洗面台や玄関に寒桜が飾られ季節の雰囲気をだしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のみなさん1人1人お気に入りの場所に行き談笑し、思い思いに過ごしていただけに見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様の慣れ親しんだなじみの家具を持ってきていただく。家族の写真など居室にお持ちいただき居室に一人一人の個性がある。	各部屋の扉にはそれぞれ異なる花の名前の入ったプレートが付けられているが、間違いやすい入居者の部屋の扉には大きな字で名前が貼られている。壁紙に合うように窓のカーテンは部屋によって色が変えてあり、使い慣れた家具や、テレビ、椅子などがあって壁には塗り絵、切り絵が貼られタンスの上に人形や写真等がある。ベッドを布団に変更したり、加湿器を置くなど居心地良く過ごせるようにしている。自分で部屋の掃除をする方や職員と一緒にしている方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体がバリアフリーで車椅子でも移動可能な為、活動範囲が広い。トイレの場所や居室がわからない利用者様には目印を貼って、自立した生活ができる様工夫している。		